

教育振興基本計画 用語解説

行	用語	説明	ページ
あ 行	ICTツール	ICTは、Information and Communication Technology（情報通信技術）の略。この技術を用いた機器、ソフトウェア、サービス全般を指す。パソコン、タブレット、電子黒板、学習システムなどが含まれ、教育の質向上や多様な学びの実現に役立つ。	27
	アントレプレナーシップ	急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神。	8
	いじめ	児童生徒等に対して、同じ学校等に通う一定の人的関係にある他の児童生徒等が行う心理的または物理的な影響を与える行為。これにはインターネットを通じて行われるものも含まれ、対象となった児童生徒等が心身の苦痛を感じる場合を指す。	18
	Eジャーナルしずおか+	静岡県教育委員会が運営する教職員資質向上のための情報発信サイト。県内の優れた教育実践や研究成果、教育に関する最新情報などを掲載し、教職員の資質向上と教育活動の充実・発展に貢献する。	23
	医療的ケア児	日常生活及び社会生活を営むために恒常的に医療的ケア（人工呼吸器による呼吸管理や喀痰吸引その他の医療行為）を受けることが不可欠である児者（18歳以上の高校生等を含む）。	21
	インターカルチュラル	「外国人はまちづくりのパートナー」とポジティブにとらえ、外国人のもつ文化的多様性を静岡県全体の活力や成長につなげる新しい考え方のこと	10
	ウェルビーイング	身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態。	4
	ウェルビーイング指標	個人の身体的、精神的、社会的な良好な状態を客観的に評価するための具体的な数値やデータ。幸福度、生活満足度、健康、社会参加など多様な項目で構成され、質の高い生活実現に向けた政策立案や状況把握に用いられる。	4
AI技術	AIは、Artificial Intelligence（人工知能）の略。データから自ら学習し、推論、判断、言語理解、画像認識などを自動で行い、複雑な問題解決や業務効率化を可能にする。	1	

行	用語	説明	ページ
あ 行	オンラインプラットフォーム	ネット広告、ネット市場、検索エンジン、SNS、アプリ市場、決済システム等の広範なネット上の活動の基盤のこと。	23
か 行	外国ルーツ	国籍を問わず、文化的、言語的に外国の背景をもつ者。	10
	架け橋期のカリキュラム	幼保小が協働して、期待することも像や育みたい資質・能力、園で展開される活動や小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等を明確化したもの	7
	学校施設中長期整備計画	学校施設長寿命化整備指針に基づき、学校の建物や設備、敷地などの老朽化対策や教育環境向上を目指し、将来を見据えた実行計画。計画的な改修、建て替えなどにより、安全で質の高い教育活動を支える基盤を確保する。	29
	学校施設長寿命化整備指針	学校の建物や設備を長期に良好な状態で維持するための指針。計画的な老朽化対策、適切な維持管理、改修により、施設機能維持と更新費用抑制を図る。安全で質の高い教育環境を確保し、財政負担の軽減を目指す。	29
	家庭教育支援員	県家庭教育支援基礎講座等で家庭教育支援の知識とスキルを学んだ地域人材で、主に、保護者同士が子育てについて話し合う交流会のファシリテーションを行う。	24
	客観指標	個人の主観を排し、誰もが共通基準で測定・評価できる数値やデータ。学習到達度、出席率、体力測定結果などが例。教育現場で生徒の状況把握、指導効果測定、学校運営改善などの客観的評価に用いる。	4
	キャリア形成能力	自らのキャリアを主体的に築いていく力。自己を理解し、社会や職業に関する知識を得て、目標を設定。変化に適応しながら課題を解決し、能力を発揮すること。	5 11
	キャリア・パスポート	児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価するためのポートフォリオ。	11
教育DX	DXは、Digital Transformation（デジタルトランスフォーメーション）の略。デジタル技術で教育を変革すること。単なるデジタル化だけでなく、学習方法や指導、教職員の業務プロセスを革新し、個人に最適な学習支援や教員の業務効率化などが含まれる。	26 28	

行	用語	説明	ページ
か 行	教科担任制	教師が特定の教科の指導を専門的に担当し、複数のクラスを受け持つ制度。小学校高学年や中学校で多く導入。教師の専門性を高め、より質の高い指導を提供することで、児童生徒の深い学びや学習効果の向上を図る。	6
	協働的な学び	児童生徒がグループで協力し、対話を通じて課題解決や探究を行う学習方法。互いの意見や知識を共有し、多様な視点から考察することで、深い理解や思考力、コミュニケーション能力を育むことを目指す。	5 6
	国の第四次教育振興基本計画	将来社会を見据え、教育振興の総合的な方向性を示す政府の中長期計画。個別最適化された学び、持続可能な社会の創り手育成、ウェルビーイング向上などを重点に掲げ、教育の質向上と社会発展を目指す。	2
	クラウド	インターネット経由でIT資源（サーバー、ソフトなど）を必要な時に必要なだけ利用する形態。自前で機器を持たず、コスト削減が可能。教育現場では、学習管理システムやオンライン教材の共有基盤として活用が進む。	28
	グランドデザイン	将来を見据え、あるべき姿や目標、その実現に向けた全体的な構想を示す基本計画。	9
	健康教育	社会の変化に対応して生涯にわたり健康な生活を送るための教育。児童生徒が心身の健康を自ら保持増進するために必要な能力・態度の育成を目指す。	15
	公益社団法人静岡県私学協会	静岡県内の私立学校の振興と発展を目指す公益社団法人。私立学校間の連携強化、教育研究の推進、教職員の研修支援などを通じ、私学教育の質の向上と多様な教育機会の提供に貢献する。	27
	高等学校等就学支援金	家庭の教育費負担を軽減し、高校教育の機会均等を促進する国の制度。	20
	高度デジタル人材	デジタル技術を深く理解し、活用して新たな価値創造や課題解決ができる専門的人材。	8
校内教育支援センター	学校に行きづらさを感じている児童生徒への早期の支援や登校復帰支援を目的に、教室とは別の場所で学習指導や相談支援を実施する居場所のこと。	19	

行	用語	説明	ページ
か 行	幸福度	個人の心身や社会的な良好な状態を主観的に測る指標。生活満足度や心の健康、社会とのつながりなど多角的に評価される。政策立案、教育、地域づくりで、人々の豊かな生活やウェルビーイング向上に活用される。	4
	交流籍	特別支援学校の児童生徒が、居住する地域の小・中学校と交流するために置く副次的な籍のこと。	21
	こえのもりしずおか	「こども基本法」の趣旨に基づき、こども・若者（小学生～29歳）からの意見をインターネット上で募集し、施策に反映することを目的に、県が設置するオンラインプラットフォーム。	23
	国際バカロレア教育	文部科学省でもグローバル人材育成の観点から普及・拡大を推進している。国際バカロレア機構（IB: International Baccalaureate）は、本部ジュネーブが提供する国際的な教育プログラム。	13
	固定的な性別役割分担意識	男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが適当であるにもかかわらず、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分けて考えること。「男は仕事・女は家庭」「男性は主要な業務・女性は補助的業務」などの例がある。	17
	こどもの居場所	こども・若者が過ごす場所、時間、人との関係性全てが、こども・若者にとっての居場所になり得る。居場所とは、物理的な「場」だけでなく、遊びや体験活動、オンライン空間といった多様な形態をとり得るものである。	19
	こどもの権利条約	1989年に国連で採択された、こどもの基本的人権を国際的に保障するための条約。18歳未満の児童（こども）を権利をもつ主体と位置づけ、大人と同様にひとりの人間としての人権を認めている。	18
	個別最適な学び	こども一人ひとりに応じた指導や、こども自身が自分に合った方法で取り組む学習などのこと。協働的な学びと一体的に充実させていくことが求められる。	5 6
	コミュニティ・スクール	学校と地域住民等が力を合わせて学校づくりを進める「学校運営協議会」を設置している学校のこと。	24
コロナ禍	新型コロナウイルス感染症が2020年から2023年にかけて世界的に流行した期間。社会全体に大きな影響を与え、教育現場ではオンライン授業導入、学校行事中止など、学びの形が大きく変容した。	1	

行	用語	説明	ページ
か 行	コンプライアンス	法令や規則等、社会的規範、組織のルールを守ることを指す。組織や個人が倫理的に正しい行動をとり、不正や違反を防ぐことで、信頼関係の維持や社会的責任の遂行に重要な役割を果たす。	27
さ 行	産業教育	中学校、高等学校、大学、又は高等専門学校が、生徒または学生等に対して、農業、工業、商業、水産業その他の産業に従事するために必要な知識、技能及び態度を習得させる目的をもって行う教育。	12
	35人学級編制	公立小中学校の学級定員を段階的に引き下げる取組。小学校では令和3年度の義務標準法改正により、学級編制標準を5年間で35人に引き下げた。中学校では、1年生から段階的に広げて、28年度に全学年で35人学級となる。	6
	自己有用感	自分が他者や社会にとって役立っている、貢献できていると実感する心の状態。	6
	静岡型マイスター・ハイスクール	国のマイスターハイスクール事業を継承し、静岡型として専門高校と産業界・地方公共団体が連携して、地域産業を牽引する最先端の職業人材を育成する取組。	12
	静岡県教育振興基本計画 (2022～2025年度)	静岡県の2022-2025年度の教育の方向性を示す計画。学力・人間力の育成、教職員の資質向上、ICT活用、地域と連携した学び、誰一人取り残さない教育環境の整備等を柱に令和4年3月に策定された。	1
	静岡県教育大綱	静岡県の教育の理念や施策の基本方針を県民に分かりやすく伝えるため策定。2025年度から2028年度までの4年間を期間とし、「未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力を育む教育の実現」を基本理念としている。	2
	静岡県教員育成指標	静岡県教育委員会が定める、静岡県の教員がその職責、経験及び適性に応じて向上を図るべき資質能力を明確化したもの。	27
	静岡県校長育成指標	静岡県教育委員会が定める、静岡県の校長がその職責、経験及び適性に応じて向上を図るべき資質能力を明確化したもの。	27
	静岡県産業教育審議会	産業教育振興法第12条に基づき、本県の産業教育の振興を図るため、静岡県が設置した審議会。	12

行	用語	説明	ページ
さ 行	静岡県総合計画	静岡県の将来像と施策の方向性を示す最上位計画を指す。産業・防災・福祉・教育など分野横断で目標と取組を定め、総合的な県政運営を推進する。	2
	しずおか県民カレッジ	静岡県教育委員会が平成8年度に開始した県民が地域で学ぶ機会を支援する取組。市町、大学、公民館、NPO等が行う「しずおか県民カレッジ」との連携講座の受講実績に応じ称号を授与し、学びの継続を促す。	25
	静岡県ものづくり競技大会	静岡県内の若手技能者が技能を競い合う大会を指す。各職種で実技競技を行い、技能向上と人材育成、技能尊重の機運醸成を図る。全国大会や国際大会への登竜門ともなる。	12
	次世代校務支援システム	クラウドを基盤として学校業務のデジタル化とデータ連携を進め、教務・学籍・成績・健康・保護者連絡等を一元的に統合管理するシステムを指す。標準仕様に準拠し、二重入力の解消や校務の省力化、教育データの活用を促進する。	28
	社会教育人材	地域の学びや活動を支援・調整する人材を指す。社会教育主事、社会教育士、社会教育施設職員、地域ボランティア、NPO職員などが含まれ、住民の主体的な学習・活動を促進する役割を担い、学びを通じた地域づくりの推進に貢献する。	25
	主観指標	個人の感覚や評価に基づき測定する指標を指す。満足度、自己効力感、安心感などの自己申告により把握し、客観指標と併用して状態や成果を多面的に評価する。	4
	授業づくりアシストツール	授業の計画・教材作成・評価を効率化するための支援ソフトや機能を指す。単元構成、板書案、評価規準、資料提示、振り返り記録などを一体的に支援する。	21 28
	小1ギャップ	小学校入学時に、幼児期の生活や学習環境と小学校の制度・集団生活との違いから生じる戸惑いや不適應を指す。学習習慣、対人関係、生活リズムの変化が要因となり、入学前後の連携や支援で軽減を図る。	7
	情報モラル教育	情報社会で適切に行動するための価値観・判断力・態度を育成する教育を指す。ICTの安全な利用、権利の尊重、発信・受信の責任、ルールとマナーの理解を重視する。	18
人権教育	人の尊厳や平等を理解し、差別や偏見をなくすための教育。人権を守り共生社会を築くための基礎知識と意識の形成。	18	

行	用語	説明	ページ
さ 行	スクールカウンセラー	学校における児童生徒の心理に関する支援に従事する者。	19
	スクールソーシャルワーカー	学校における児童生徒の福祉に関する支援に従事する者。	19
	STEAM教育	科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、芸術 (Art)、数学 (Mathematics) を横断して学ぶ教育手法。	8
	成果指標	施策や事業の達成度を測るために、成果の状態や変化を数量的・質的に示す指標を指す。目標値と基準値を設定し、進捗管理や効果検証、改善に活用する。客観・主観の両面を含む。	3
	生成AI	学習データをもとに、テキストや画像、動画、音楽などを生成するAI (人工知能:Artificial Intelligence) のこと	28
	施策	政策・対策そのものや、これを実地に行うこと。	2
た 行	多文化共生社会	国籍等の異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく社会。	5 10
	探究コンソーシアム	学校・大学・企業・自治体などが連携し、探究学習の機会提供や人材・資源の共有、成果発信を行う協議体を指す。地域課題と学びを結び、質の向上と継続的な仕組み化を図る。	6
	探究的な学び	児童生徒が自ら問いを立て、調査・分析・考察・表現を通じて理解を深める主体的な学びを指す。教科横断で実社会と結び、協働と振り返りを重ねて思考力・判断力・表現力等を育成する。	5 6
	男女共同参画週間	男女共同参画社会基本法の目的及び基本理念に関する国民の理解を深めるため、平成13年度から設けられた週間で、6月23日から6月29日までの1週間をいう。	18

行	用語	説明	ページ
た 行	地域学校協働活動	幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの成長や学びを支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して学校と地域がパートナーとして連携・協働して行う様々な活動。	24
	地域学校協働本部	従来からある地域と学校の連携体制を基盤として、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制。	24
	地域協議会	地域の課題解決や活性化に向け、住民、自治体、企業、団体などが参画して協議・調整・実行を行う場を指す。	9
	D×ハイスクール	文部科学省が実施する「高等学校D×加速化推進事業」の通称。	8
	地産地消	地域で生産された農林水産物をその地域で消費すること。	15
	デジチャレンジ教室	県内の中学生を対象に、授業内で技能士等を講師に招き、電子技術の解説やはんだ付け等の電子工作体験、ロボットのプログラミング体験を通じ、デジタル技術を使った「ものづくり」の楽しさを伝える静岡県事業。	12
	答申	行政官庁等から依頼された課題について、審議会や有識者会議などで調査・審議し、その結果を意見や報告として提出することをいう。法的拘束力は通常なく、政策立案や制度設計の参考資料となる。	12
	特別支援学校就学奨励費	特別支援学校に通う児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、学用品費、通学費、給食費など教育にかかる費用の一部を国と地方公共団体が補助する制度。	20
特別支援教育	特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童生徒、通常の学級に在籍する学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の障害のある児童生徒に対して、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、児童生徒の持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの。	21	
な 行	人間関係づくりプログラム	年齢に応じたコミュニケーションスキルを育む教育プログラム。令和7年度に、社会情動的スキルの視点を取り入れ小中学校用プログラムを改訂し、静岡県版SEL (Social Emotional Learning) を策定。今後、高校用、幼児教育用を策定予定。	6

行	用語	説明	ページ
は 行	非認知能力	忍耐力や自己抑制など目標を達成する力、社交性や思いやりなど他者と協働する力、レジリエンスや道徳性など情動を制御する力などに関する能力。	6
	フリースクール	一般的に、不登校のこどもに対し、学習活動、教育相談、体験活動などの活動を行っている民間の施設。	19
	プログラミング的思考力	目的や意図に沿って、物事を順序立てて分解し、規則性を見だし、必要な処理を組み立てて実行・改善する考え方を指す。	8
	放課後こども教室	地域住民の参画により、共働き世帯を含むすべての児童を対象に、無償で安心安全な活動拠点（居場所）を提供し、放課後や週末に学習や体験・交流活動を行う。	24
	放課後児童クラブ	保護者が昼間家庭にいない小学生に対し、授業終了後に適切な遊びや生活の場を与えて、健全育成を図る事業のこと。	24
ま 行	静岡型マイスター・ハイスクール	国のマイスターハイスクール事業を継承し、静岡型として専門高校と産業界・地方公共団体が連携して、地域産業を牽引する最先端の職業人材を育成する取り組み。	12
	学びの多様化学校	不登校児童生徒の実態に配慮した特別な教育課程を編成し実施する、文部科学省指定の学校教育法第1条に定められた学校。通学・オンライン・校外学習を組み合わせ、柔軟な時間割や少人数支援で継続的な学びを保障。	19
	未来を切り拓くDream授業	日常で触れる機会の少ない一流講師の講義を提供し、学校で学べない教養を身に付け、刺激し合える仲間をつくることで、自らの価値を認識し能力を更に伸ばすきっかけを与えるため、県内中学1、2年生を対象に開催するサマースクール。	8
や 行	野外教育スタッフ	自然体験やキャンプ等の活動を企画・運営し、安全管理や指導を行う人材。自然環境への理解、チームビルディング、リスクマネジメントを通じて、主体性や協働性の育成を支える。	25
	夜間中学	様々な事情で義務教育を十分に受けられなかった人を対象に、夜間に学ぶ機会を提供する中学校。基礎学力の定着と学び直しを支える。	25

行	用語	説明	ページ
や 行	やさしい日本語	難しい言葉を言い換えるなど、相手に配慮したわかりやすい日本語のことで、外国人や子どもや高齢者、障害のある人など、様々な人とのコミュニケーションの手段となるもの。	5 10
ら 行	ライフステージ	幼児期、学童期、思春期、青年期など、人の生涯における各段階のこと。	10 15
	レジリエンス	困難や逆境に直面しても、しなやかに適応し回復・成長する力。	6
わ 行	WAZAチャレンジ教室	子どもたちの「ものづくり」の技術や技能への関心を高めるため、技能士が小・中学校、特別支援学校等に出向き、「ものづくり体験」を通じて「ものづくり」の楽しさや面白さを伝える事業。アートモザイク、フラワーアレンジメント、玉子焼き、小座布団などを実施。	12